川崎市建築物環境配慮制度受付番号　20040

建築物名称	(仮称)川崎区旭町1丁目新築工事
建築主	ヤマト興産株式会社 代表取締役 石川 正秋
建築物の所在地	川崎市川崎区旭町一丁目1-1、2
設計者氏名、建築士事務所名	早川 徹太 エルアース建築設計工房株式会社 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	4,065.86m2
用途	共同住宅
構造	鉄筋コンクリート造
階数	地上11階
工事完了予定年月	令和4年3月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用、燃料系潜熱回収瞬間式給湯器
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	なし

Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency
CASBEE川崎

評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE-川崎2017年版　　使用評価ソフト：CASBEE-川崎2017(v.3.1)

1-1 建物概要

建物名称	(仮称)川崎区旭町1丁目　新築工事	階数	地上11F
建設地	神奈川県川崎市川崎区旭町一丁目1-1、2	構造	RC造
用途地域	商業地域、準防火地域・準住居地域、防火地域	平均居住人員	124　人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760　時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年3月　予定	評価の実施日	2020年12月11日
敷地面積	658 ㎡	作成者	エルアース建築設計工房　株式会社
建築面積	441 ㎡	確認日	2020年12月11日
延床面積	4,066 ㎡	確認者	エルアース建築設計工房　株式会社

1-2 外観　20040

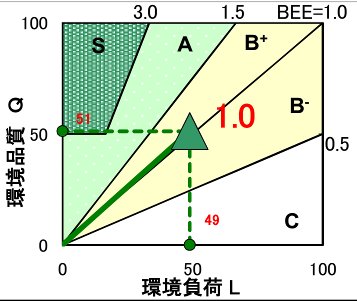
外観パース等

パースの公表を希望される場合は
図を貼り付けてください

2-1 建築物の環境効率（BEEランク&チャート）

BEE =1.0 ★★★☆☆

S: ★★★★★　A: ★★★★　B⁺: ★★★　B⁻: ★★　C: ★

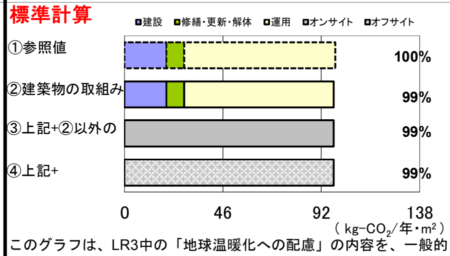


2-2 ライフサイクルCO_2(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

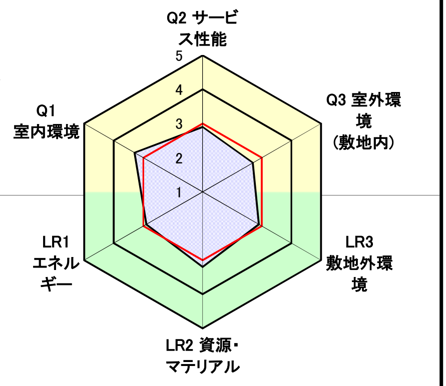
30%: ☆☆☆☆☆　60%: ☆☆☆☆　80%: ☆☆☆　100%: ☆☆　100%超: ☆

標準計算



このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO2 排出量の目安で示したものです

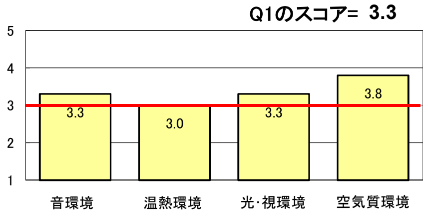
2-3 大項目の評価(レーダーチャート)



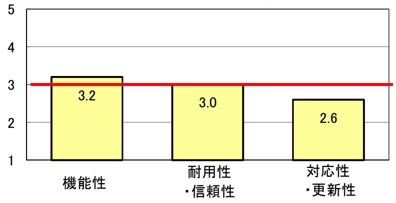
2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質　　*Q のスコア=　3.0*

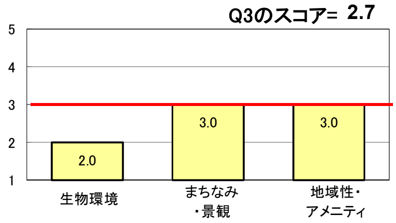
Q1 室内環境　Q1のスコア= 3.3



Q2 サービス性能　Q2のスコア= 2.9

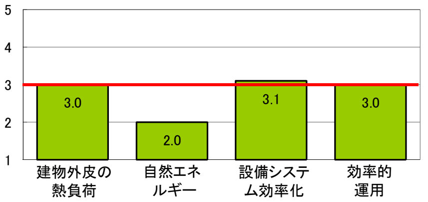


Q3 室外環境（敷地内）　Q3のスコア= 2.7

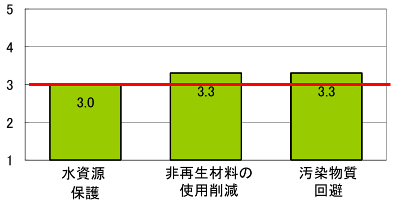


LR 環境負荷低減性　　*LR のスコア=　3.0*

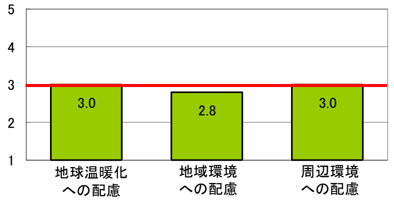
LR1 エネルギー　LR1のスコア= 2.9



LR2 資源・マテリアル　LR2のスコア= 3.2



LR3 敷地外環境　LR3のスコア=2.9



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency（建築環境総合性能評価システム）
■Q: Quality（建築物の環境品質）、L: Load（建築物の環境負荷）、LR: Load Reduction（建築物の環境負荷低減性）、BEE: Built Environment Efficiency（建築物の環境効率）
■「ライフサイクルCO_2」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO_2排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-川崎2017(v.3.1)

(仮称)川崎区旭町1丁目 新築工事

20040

重点項目についての環境配慮概要

内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。	実績重点項目スコア合計/重点項目最高点のスコア合計	重点項目への貢献点 注)(5点満点)
緑の保全・回復(G)		**Gの平均点**	**2.8**
Q-3 ■室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 2 まちなみ・景観への配慮 3 3.2 敷地内温熱環境の向上	川崎市緑指針を基に植栽計画を行う 植栽により良好な景観を形成している	2.3/4.3	2.6
LR-3 ■敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善	地域気象観測データを用いて風環境を把握	0.5/0.8	3.0
地球温暖化防止対策の推進(W)		**Wの平均点**	**3.0**
Q-1 ■室内環境対策 2 2.1 2.1.2 外皮性能 3 3.1 3.1.3 昼光利用設備 3.2 3.2.1 昼光制御	カーテン+庇(バルコニー)にて昼光制御	1.5/2.1	3.5
Q-3 ■室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 3 3.2 敷地内温熱環境の向上	川崎市緑指針を基に植栽計画を行う	1.1/2.3	2.3
LR-1 ■エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	LED照明を採用している	3.0/5.0	3.0
LR-2 ■資源・マテリアル対策 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減 3 3.2 フロン・ハロンの回避	LGS工法の為、躯体と仕上材が容易に分別可能、内装材と設備の錯綜無し分別容易 ODP=0、GWP=50未満の発泡剤を用いた断熱材を使用	3.1/4.7	3.3
LR-3 ■敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善	地域気象観測データを用いて風環境を把握	0.5/0.8	3.0
資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)		**Rの平均点**	**3.3**
Q-2 ■サービス性能対策 2 2.2 部品・部材の耐用年数	外壁:吹付(15年) 床:フローリング(20年)壁・天井ビニールクロス(20年)	0.3/0.5	3.3
LR-2 ■資源・マテリアル対策 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減	LGS工法の為、躯体と仕上材が容易に分別可能、内装材と設備の錯綜無し分別容易	2.6/4.0	3.2
LR-3 ■敷地外環境対策 2 2.3 地域インフラへの負荷抑制		0.2/0.4	2.8
ヒートアイランド現象の緩和(H)		**Hの平均点**	**2.8**
Q-3 ■室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 3 3.2 敷地内温熱環境の向上	川崎市緑指針を基に植栽計画を行う	1.1/2.3	2.3
LR-1 ■エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	BEI=0.99	3.0/5.0	3.0
LR-3 ■敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善	地域気象観測データを用いて風環境を把握	0.5/0.8	3.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **3.0**

←

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要

内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。	実績スコア合計/最高点のスコア合計	ライフサイクルCO2評価対象項目への貢献点 注)(5点満点)
建設段階			
Q-2 ■サービス性能対策 2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数		0.1/0.1	3.0
修繕・更新・解体段階			
LR-2 ■資源・マテリアル対策 2 2.2 既存建築躯体等の継続利用 2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		0.7/1.2	3.0
運用時のエネルギー			
LR-1 ■エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	BEI=0.99	3.0/5.0	3.0

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

CASBEE-川崎2017年版
(仮称)川崎区旭町1丁目 新築工事

欄に数値またはコメントを記入

20040

スコアシート 実施設計段階

配慮項目	G	W	R	H	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分 評価点	建物全体・共用部分 重み係数	住居・宿泊部分 評価点	住居・宿泊部分 重み係数	全体
Q 建築物の環境品質										3.0
Q1 室内環境							0.40		-	3.3
1 音環境						-	0.15	3.3	1.00	3.3
1.1 室内騒音レベル						-	-	3.0	0.50	
1.2 遮音						-	-	3.7	0.50	
1 開口部遮音性能					住戸:T-2	-	-	5.0	0.30	
2 界壁遮音性能							-	2.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					住戸:Lr-45	-	-	4.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					住戸:Lr-50	-	-	4.0	0.20	
1.3 吸音						-	-	-	-	
2 温熱環境						-	0.35	3.0	1.00	3.0
2.1 室温制御						-	-	3.0	0.50	
1 室温						-	-	3.0	0.63	
2 外皮性能		W				-	-	3.0	0.38	
3 ゾーン別制御性							-		-	
2.2 湿度制御						-	-	3.0	0.20	
2.3 空調方式						-	-	3.0	0.30	
3 光・視環境						-	0.25	3.3	1.00	3.3
3.1 昼光利用						-	-	3.0	0.30	
1 昼光率						-	-	3.0	0.50	
2 方位別開口							-	3.0	0.30	
3 昼光利用設備		W				-	-	3.0	0.20	
3.2 グレア対策						-	-	4.0	0.30	
1 昼光制御		W			住戸:カーテン+庇(バルコニー)にて昼光制御	-	-	4.0	1.00	
3.3 照度						-	-	3.0	0.15	
3.4 照明制御						-	-	3.0	0.25	
4 空気質環境						-	0.25	3.8	1.00	3.8
4.1 発生源対策						-	-	4.0	0.63	
1 化学汚染物質					F☆☆☆☆の建築材料をほぼ全面的に採用	-	-	4.0	1.00	
4.2 換気						-	-	3.6	0.38	
1 換気量						-	-	3.0	0.33	
2 自然換気性能					住戸:居室面積の1/6以上の開閉可能な窓を確保		-	5.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮						-	-	3.0	0.33	
4.3 運用管理						-	-	-	-	
1 CO_2の監視							-		-	
2 喫煙の制御							-		-	

項目					備考					
Q2 サービス性能						_	0.30	-	-	2.9
1 機能性						**3.4**	0.40	**3.2**	1.00	3.2
1.1 機能性・使いやすさ						**3.0**	0.57	**4.0**	0.60	
1 広さ・収納性						-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応					各住戸100Mbitクラスのブロードバンドが利用可能な環境が整備	-	-	4.0	1.00	
3 バリアフリー計画						3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性						**-**	-	**2.0**	0.40	
1 広さ感・景観						-	-	3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース						-	-	-	-	
3 内装計画						-	-	1.0	0.50	
1.3 維持管理						**4.0**	0.43	-	-	
1 維持管理に配慮した設計					維持管理に配慮した設計において取り組みが標準以上	4.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保					維持管理用機能の確保に配慮について取り組みが標準以上	4.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性						**3.0**	0.30	-	-	3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振						**3.0**	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能						3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数						**3.3**	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数			R			3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔			R			2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔			R		更新必要間隔16年以上25年未満	4.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔			R			3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔			R		給水汚水雑排水管の主要用途3種についてB以上でEは不使用	5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔			R			3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性						**2.8**	0.20	-	-	
1 空調・換気設備						3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備						2.0	0.20	-	-	
3 電気設備						3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法						3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備						3.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性						**3.0**	0.30	**2.5**	1.00	2.6
3.1 空間のゆとり						-	-	**2.0**	0.50	
1 階高のゆとり						-	-	2.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ						-	-	2.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり						-	-	**3.0**	0.50	
3.3 設備の更新性						**3.0**	1.00	-	-	
1 空調配管の更新性						3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性						3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性						3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性						3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性						3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保						3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)						_	0.30	-	-	2.7
1 生物環境の保全と創出	G	W		H		**2.0**	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮	G					**3.0**	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮						**3.0**	0.30	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上						**3.0**	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上	G	W		H		**3.0**	0.50	-	-	

項目					内容					
LR 建築物の環境負荷低減性							-		-	3.0
LR1 エネルギー						_	0.40	-	-	2.9
1 建物外皮の熱負荷抑制		W		H		3.0	0.20	-	-	3.0
2 自然エネルギー利用		W		H		2.0	0.10	-	-	2.0
3 設備システムの高効率化		W		H	[BEI][BEIm] = 0.99	3.1	0.50	-	-	3.1
4 効率的運用						3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価						-	-	-	-	
4.1 モニタリング		W		H		-	-	-	-	
4.2 運用管理体制		W		H		-	-	-	-	
集合住宅の評価						3.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング		W		H		3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制		W		H		3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル						_	0.30	-	-	3.2
1 水資源保護		W	R			3.0	0.20	-	-	3.0
1.1 節水						3.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用						3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無						3.0	1.00	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無						-	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減						3.3	0.60	-	-	3.3
2.1 材料使用量の削減		W	R			2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用		W	R			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		W	R		–	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		W	R		断熱材：押出法ポリスチレンフォーム	3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		W	R			3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		W	R		LGS工法の為、躯体と仕上げ材が容易に分別可能となっている 内装材と設備の錯綜無し分別容易	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避						3.3	0.20	-	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用						3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避						3.5	0.70	-	-	
1 消火剤		W				-	-	-	-	
2 発泡剤（断熱材等）		W			ODP＝0、GWP＝50未満の発泡剤を用いた断熱材を使用	4.0	0.50	-	-	
3 冷媒		W				3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境						_	0.30	-	-	2.9
1 地球温暖化への配慮		W				3.0	0.33	-	-	3.0
2 地域環境への配慮						2.8	0.33	-	-	2.8
2.1 大気汚染防止						3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善	G	W		H		3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制						2.5	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減			R			3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			R			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制			R			1.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			R			3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮						3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止						3.0	0.40	-	-	
1 騒音						3.0	1.00	-	-	
2 振動						-	-	-	-	
3 悪臭						-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制						3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制						3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制						1.0	-	-	-	
3 日照阻害の抑制						3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制						3.0	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策						3.0	0.70	-	-	
2 昼光の建物外壁による反射光（グレア）への対策						3.0	0.30	-	-	